

指揮者

有田正広 & 仲道郁代

フォルテピアノ奏者

スリルをスパイスに、 美味しい協奏曲を聴く

鍵盤奏者の仲道郁代とクラシカル・プレイヤーズ東京が6月28日、
2度目のモーツァルト《ピアノ協奏曲》に挑む。今回は第21番。
前後に《フィガロの結婚》序曲とベートーヴェンの《第8交響曲》とを置く
古典派プログラムに、どう取り組むのか。
仲道と指揮者・有田正広それぞれの立場から演奏会の魅力を語る。

—— ベートーヴェン《交響曲第8番》の特徴は
どんなところにあるでしょうか

有田 特徴がつかみにくい所が特徴かもしれません。あえて言えば「農民のための音楽」。当時、音楽に深い経験のない人たちが楽しめたと思います。たとえば第4楽章は奇をてらったようなリズムで、拍子が分かりにくい上にメロディーらしきメロディーがない。おもちゃ箱をひっくり返したような楽しさです。

実はこの曲をやるうと決めるのに勇気が要りました。第4楽章を振るのはとても難しい。オーケストラのメンバーも緊張するようです。8番をやると言ったら、メンバーが「えー」と言いました(笑) いった何が起こるか分からない面白さ。子供たちがおもちゃをわしづかみにして、取り合いをするような緊張感。スリリングですね。

—— モーツァルト《フィガロの結婚》序曲も際
立った曲ですね

有田 オペラ《フィガロの結婚》は男と女、貴族と庶民の対立と融和がテーマ。それを映画の予告編のように描いて、聴かなきゃ損と思わせるのが序曲です。

よく知られた曲なので演奏はとても難しい。誰でも覚えられ音楽の上、ものごとを効果的に表す工夫もされています。はじめのメロディーは「躊躇」を表しているんです。(旋律を口ずさみながら) 逡巡して、絶句して、爆発。「貴族に対する挑戦」というテーマをこのように表現しています。

ファゴットがはじめの「躊躇」の旋律を吹いていますが、この楽器にとって嬰ハの音はとても出にくい。入れ歯の外れそうな老人が、口ごもりながら貴族に対して何かを言いたそうにする様

子を表しているんでしょうね。

こうした表現に貴族たちは不穏な空気を感じ取ります。庶民はあっけらかんと楽しみ喜ぶけれど、貴族は自分たちの体制への反感を感じ、不安を覚える。これもまたスリリング。

ベートーヴェンの《第8交響曲》も《フィガロ》序曲もスリルに溢れた音楽。このスリリングな2曲が「美味しい」コンチェルトを挟むというのもいいでしょう?これが今回の僕の企みです。

—— 仲道さんは現代の楽器でも18世紀スタイルの楽器でも、モーツァルトの協奏曲を演奏されますね

仲道 当時の楽器で演奏してみると、モーツァルトの本来の息づかいを感じます。それを現代の楽器に置き換えるのは難しい。当時の楽器に触れば触れるほど、そう思われます。でもそれと



現でできること。両方を弾くことでそういう互換性に気がつきました。

——今年2月、神戸市室内合奏団とモーツァルトの協奏曲で共演。ピアノを弾きながら指揮をする「弾き振り」をなさいました

仲道 指揮にあたって有田さんのところでいろいろと勉強に励みました。楽譜やその他の資料もたくさん見せてもらって。昨年9月、有田さんと第20番を演奏したことが神戸でも活きました。以前モーツァルトに向かってた時とは、楽譜の読み方がずいぶん変わったんです。当時の考え方で譜面を読むことの大切さに気付かされました。モーツァルトと向き合う時はそういうアプローチがもっとも相応しいと思います。今回のリハーサルが始まったら今度は、神戸での経験がクラシカル・プレイヤーズの方にフィードバックされると思います。

有田 それは自然なことですよ。楽器や奏法だけでなく「奏者のコミュニケーション」なども進みますし。「そこをそうするか」と。そこからまた新しい演奏が生まれる。

仲道 この間、神戸と演奏した21番のオーケストラ・パート、有田さんとのリハーサルを通して、クラシカル・プレイヤーズのみなさんがどう演奏するかを確かめられるので、とても楽しみ。このフレージングはこうした方がよいか、というようなアイデアが得られると思うと、期待が膨らみます。

—— 今回の第21番は昨年10月の第20番とは対照的ですね

仲道 21番の方が室内乐的だと思います。管楽器とピアノとの入り交じり方が顕著だし、第2・3楽章では言葉の掛け合いのようなところも。ピアノとオーケストラも親密なら、オーケストラの

パート同士も親密。祝祭的な雰囲気強調するためにトランペットとティンパニは使われていませんね。キャラクターを出すために面白い立ち位置にいると思います。

有田 僕も全くもって同感。「弾き振り」をするとそういうところに興味が出ちゃうね!

仲道 ほんとうにそうなんです。面白くて。これまではそこまでオーケストラ・パートをみていませんでした。ここであちらが出るな、今度はこちらが出るなくらいのことは把握していましたけど。指揮をして微に入り細を穿つ楽譜の読み方になりました。有田さん、また今度ゆっくりお話を(笑)

聞き手: 澤谷夏樹(音楽評論)



MASAHIRO ARITA
ありた・まさひろ 1989年「東京バツハ・モーツァルト・オーケストラ」を結成、指揮者としての活動も開始する。09年4月ロマン派までをレパートリーとする日本初のオリジナル楽器オーケストラ「クラシカル・プレイヤーズ東京」を結成。10年3月、ショパン/ピアノ協奏曲第2番(仲道郁代)を、そして同年8月には第1番をオリジナル楽器による演奏で日本初演を行い同ピアノ協奏曲を収録したCDは好評を博した。また、研究者としても注目を集めており国際的な学会やレクチャーでの成果は、高く評価されている。現在、昭和音楽大学、桐朋学園大学で後進の指導にもあたっている。

有田正広



IKUYO NAKAMICHI
なかもち・いくよ 桐朋学園大学1年在学中に第51回日本音楽コンクール第1位を受賞。国内外での受賞を経て1987年ヨーロッパと日本で本格的にデビュー。温かい音色と抒情性、卓越した音楽性が高く評価され、人気、実力ともに日本を代表するピアニストとして注目を集めている。近年は「モーツァルト ピアノ・ソナタ全曲演奏会」などを行い評価を得ている。レコーディングはソニー・ミュージックジャパン/インターナショナルと専属契約を結び多数のCDをリリース。

仲道郁代

Photos: Kiyotaka Saito

東京芸術劇場 Presents クラシカル・プレイヤーズ東京 演奏会

6月28日[金] 19:00開演(18:00ロビー開場) コンサートホール

指揮: 有田正広 フォルテピアノ: 仲道郁代 管弦楽: クラシカル・プレイヤーズ東京(オリジナル楽器使用、リーダー: 大内山 薫)

モーツァルト/ 歌劇「フィガロの結婚」序曲 Kv.492、ピアノ協奏曲第21番 ハ長調 K.467

L.v. ベートーヴェン/ 交響曲第8番 ハ長調 Op.93

| チケット料金 | 【全席指定】S席: 4,000円/A席: 3,000円/B席: 2,000円 | お問合せ | 東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296

※未就学児入場不可 ※やむを得ぬ理由により曲目等変更の可能性がございますのでご了承ください。

主催: 東京芸術劇場(公益財団法人東京歴史文化財団)